（別紙4）　　平成　27　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1870100953		
法人名	医療法人　冨永病院		
事業所名	冨永グループホーム		
所在地	福井県福井市西木田3丁目5番13号		
自己評価作成日	平成27年8月18日	評価結果市町村受理日	平成27年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=1870100953-00&PrefCd=18&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530－0041　大阪市北区天神橋2丁目4番17号　千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者それぞれの個性・好みに合わせた活動を支援しています。ホールや食堂、それぞれに居心地のよい場所で過ごしていただき、洗濯物や食器拭きなど、できる作業を手伝っていただいています。以前より、入居者の外食の希望があり、取組みを始めているところです。

また、母体が病院であり、日頃から小さなことでも連携し、体調管理に努めています。行事の際は病院患者さんにも遊びに来ていただき、よい交流ができています。

今年度より特に力を入れ始めたのは、地域との交流・オープンなグループホームを目指し、ボランティア・職場体験の受入れをしています。地域の高齢の方はもちろん、そのご家族、将来を支える学生さんまで幅広く、気軽に遊びに来ていただける場所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当該ホームは独自の理念のもと「今までの生活を大切に、一人ひとりが最後までその人らしく生きることを支援します」とのキャッチフレーズを作り、職員間で意見を出し合いケアや業務を決めていくことを大切にし情報の共有や連携良くサービスの向上に活かしています。外出や外食ができるように職員の体制を整え回転寿司への外食に繋げる等、楽しんでもらえるよう取り組んでいます。排泄の支援では個々に合わせた支援をすることで失敗が減ったり、排便習慣ができる等自立に向かうよう支援し、移乗や座位の姿勢保持について理学療法士からアドバイスをもらったり、パッドなどの排泄用品について職員間で話し合い利用者本位に検討しています。また母体が医療法人でありホームの看護師を中心に病院と連携を図り、個々の利用者の間隔で受診の支援を行い健康管理が行われています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた場所で、地域の一員として」という点を意識できている。「その人らしく」個性に合わせた関わりをもっと増やしたい。	グループホームの独自の理念のもと「今までの生活を大切に、一人ひとりが最後までその人らしく生きることを支援します」とのキャッチフレーズを職員の意見を出し合い作っています。理念はエレベーターやフロアに掲示し意識し支援できるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	母体の病院でお世話になったから、とボランティアに来てくださったり、中高生の職場体験の場として地域とのつながりをもっている。	日々の散歩時に出会った方とあいさつを交わしています。運営推進会議の際に民生委員から地域の行事の情報をもらい地域の祭りに参加したり、フラダンスや歌などのボランティアを受け入れ交流し利用者に楽しんでもらっています。また社会福祉協議会を通して中学生の職場体験の受入れを行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター主催のキャラバンメイト交流会に参加している。今後、認知症に関する勉強会に協力していきたいと考えている。徘徊のある方への発見の目になることも、していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員さんやご家族、地域包括支援センターの助言や質問から、施設の体制を見直している。	運営推進会議は家族代表や民生委員兼自治会長、地域包括支援センター職員の参加の下、隔月に開催しています。利用者の状況やヒヤリハット事例、ホームの行事等の報告を行い、意見交換をしています。繰り返すヒヤリハット事例の検討方法や記録についてのアドバイスをもらい実施してみる等、出された意見からケアや運営に反映できるよう取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	「ケアに関することで悩んだ際は相談ください」と市の担当者が声をかけてくださり、ちょっとしたことでも相談しやすい雰囲気がある。	運営上わからないこと等があれば市の窓口へ行き聞いたり、キャラバンメイト交流会に参加した際に市職員と情報交換でき、相談しやすい関係が構築されています。また、市から介護相談員を受け入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年度から1年間、勉強会や外部講師による研修を通し、職員一丸となって取り組んできた。現在も、定期的に会議をもち、拘束のないケアを目指している。玄関の施錠は行っている。	身体拘束については年に一度外部講師による研修を受講し職員に周知を図り、参加できなかった職員に伝達研修を行っています。3か月毎にその必要性について検討し徐々に解除できています。玄関の施錠は安全のために行っていますが、散歩に出かけたり寄り添いながら拘束感の無い支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体的虐待については、身体拘束と関連して意識づけてきたが、その他の虐待について更に勉強し、全職員が何が虐待となるかを知っておく必要がある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	こういった制度に関しては日頃、話し合う機会がもてていない。入居希望者のご家族さまでも、さまざまな制度について関心のある方が増えており、学習しておきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・改定の際は口頭でも文書でも十分に説明を行うようにしている。疑問点は遠慮なく尋ねていただけるよう、声かけしている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に小さなことでも意見をお聞きしている。運営推進会議では、運営システムに関することについても意見をいただき、参考にしている。	運営推進会議や面会時に家族とコミュニケーションを図り、希望や必要に応じて連絡帳でやり取りしながら意見や要望を聞いています。出された意見は検討し運営に反映するよう努め、今後アンケートなども行っていきたいと考えています。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今夏から、管理者による職員個人面談を実施。そこから出てきたアイデアについてまとめ、実際に役立てている。	管理者は日々職員とコミュニケーションを図るように努め、個人面談を行い意見や提案を聞く機会を作っています。毎月開催する職員会議では事前に聞いておいた事から内容を絞り話し合いがスムーズになるように工夫し、行事ごとに担当を決めて意見や提案が運営やサービスに反映できるよう取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与について、個人の努力･実績を反映できるよう、そのシステム作りに取り組みたい。職員それぞれの興味・適正にあった活動により、いきいきとした仕事、現場の活性化につなげたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護の経験年数・就業年数に応じた研修に参加できるよう配慮している。年間計画として、各職員に興味のある研修を年度初めに選んでもらい、予定を立てた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	キャラバンメイト交流会が、今後同業者との交流にきっかけになると期待している。お互いに訪問し、よい部分を吸収していきたい。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の段階で、インテークをしっかり行うことに努めている。分からない事は何でも聞いてもらえるよう、笑顔や声のトーンを大事にしている。認知症のある方なので、表情や仕草等で読み取れるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と共に家族のインテークをしっかり行っている。分からない事等を含め、説明については十分に行うように努めている。本人と同じよう、聞きやすい雰囲気をつくることに努め、困っていることや不安なことを引き出し傾聴するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人への聞き取り、状態観察をし、今までの状況を把握して対応しているので、他のサービス利用は検討していない。しかしGH内でのベッドや車椅子等のサービスについては今までの生活を変えないようにしながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を大切にし、洗濯物をたたんでもらったり茶碗を拭いてもらったりと、出来ることは一緒にしている。人生の先輩として敬いを忘れずに接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡をとりあい、現在の状態を把握してもらい、面会の時間を大切に過ごしてもらっている。家人に外泊の様子を連絡帳に書いてもらい、その時の様子を共有し、対応の仕方について共に考えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の散歩で、なじみの場所・人との交流をすすめている。自室内には家で使用した物を置き、環境面に気をつけている。近隣の方に散歩して声をかけている。	以前からの友人や近隣に住んでいた方、親戚等の来訪時には、ゆっくりと寛いでもらえるスペースを準備しお茶を出し写真を見てもらったり日々の様子を伝えています。散歩時に自宅に寄られ仏壇を参り帰ってきたり、馴染みの店に行く支援をすることもあり、馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや食事の席の配置について、話せる人や、仲のよい人等気を配っている。利用者同士のトラブルがあった時には仲介している。会話のきっかけになるよう職員が間に入ることもある。またHPの患者さんがGHに来られ一緒にレクをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の病院や他所の病院に入院されても、継続的に本人と家族の関係を密に連絡している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく家での生活を継続してもらえるように希望を聞いている。生活の中で、本人らしい姿があるよう、しっかりとアセスメントをし、取り組みを行っている。	入居時には個々の心身の状況や生活歴、好みや希望を聞き、思いや意向の把握に繋げています。入居後は日々の関わりの中から得られた情報を記録に残したり、サービス担当者会議の際に話し合い、意思の疎通が困難な方の思いも把握できるように取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・本人からインテークをしっかり行い、情報の把握に努める。その人らしい生活をしていけるよう、努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活や状態について、介護記録や生活支援の記録、水分や食事摂取量の記録を行い、細かい変化にも気が付けるように努めている。連絡帳で職員間の引き継ぎを行っている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家人が来られた時は、今の状態を話している。常に利用者にとってどのようにしたらその方の為になるか考え、管理者やケアマネ・介護職員・家族が一体になり、アイデアを出し合いながら計画を立てている。	本人・家族の意向やアセスメントの基介護計画を作成し、6か月毎に評価修正を行い1年毎に見直しています。計画作成担当者は半月ごとに計画の実施状況を確認し、見直しに当たっては再アセスメントを行い受診時の医療情報や本人・家族の意向を再確認しサービス担当者会議で話し合っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	認知症ケアの視点と内容を学ぶ目的として外部からの指導と勉学に取り組んでいる。介護記録及び連絡ノート記載とケアプランとの連動がより進んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望を中心とし、可能な限り受け入れ、枠に拘ることなく、本人と家族の「歴史を支える」ケアを立案し、現場による職員のケアの確立にむけて多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員や学生等のボランティアの受け入れを行っている。外出希望のある方は、近所を散歩したり、一緒に買い物に行ったりと、希望に応えられるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には併設のDrの了解の上、本人または家族の希望する医療機関に受診出来るよう配慮している。その際には情報提供も行っており、重要な要件の時は家族希望などにより受診に同行する事もある。	これまでのかかりつけ医を継続できることも説明していますが、医療法人であり連携状況等を伝え全員が協力医に変更しています。継続する場合は家族が受診の対応を行い必要によっては職員が同行しています。利用者ごとに受診の間隔は違い、其々に受診の支援を行いホームの看護師を中心に健康管理や病院との連携を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中での心身の状況把握、バイタルの確認で早期の病院受診、緊急連絡体制が確立している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、状態報告を密にとり、入院中も様子把握に努め、病院との連携はできていて退院時の情報提供により、ホームでの生活がスムーズに出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の様子、身体の異常は小さいことでも全て看護師に報告し、併設のDrからの指示に従って対応し、家族には現状報告と共に事業所の出来る範囲の事を詳しく説明している。変化に備えて事ある毎に検討し、指示を受けながら支援をしている。	入居時に重度化した場合にホームで支援できることやできないことの説明を行い、基本的には看取りの支援はできないことも伝えています。重度化した利用者の家族に医師から病状の説明を行い、入院も視野に入れながらできる限りの支援をしています。本人や家族の強い希望があり、話合いを重ねながら医師や看護師と連携を取り看取り支援を行った事例があります。今後看取りの支援を行っていくためには体制作りが必要と考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	分からない事や不安な事があれば、その都度相談し、話し合うようにしており、全体会議等で、急変時に備えている。緊急時等は、併設の病院から駆けつけてくれる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	所轄の消防署の協力を得て、年2回、日中・夜間想定の火災時におけつ避難訓練を、実施している。通報の仕方や消火栓の使用方法等の訓練も実施している。民生委員や地域の方の参加もお願いしている。	年に2回消防署の立ち合いの下、昼夜を想定し通報や初期消火、避難誘導の訓練を行っています。民生委員に訓練へ参加してもらったり、地域の災害訓練を教えてもらい地域との協力体制に繋げたいと考えています。法人では備蓄を準備し、ホームが地域の一時避難所となっています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについて職員同士で話し合い一人ひとりにあった声かけを心がけている。	理念に利用者の尊厳を守ることも謳われており、笑顔で対応し否定しない関わりを心がけています。日々の関わりの中で接遇やプライバシーについて守られないことも見られ、接遇についての研修を行いたいと考えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いや希望を取り入れ自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し安心感のある寄り添い、関わりをして暮らして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合った服装、清潔を保ち、本人の出来る範囲で身だしなみをきれいに整えて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の食器拭きや台拭きは利用者に手伝ってもらっている。副食は好みを把握しており、食べやすいように工夫をしている。	食事は隣接する病院から届き、ホームで盛り付けをしています。利用者が携わることはなく、時折一緒におやつ作りをしたり、行事の際にチョコレートフォンデュをする等、徐々に楽しみ事となるよう支援しています。回転寿司への外食が実現し利用者の笑顔が多く見られています。	食事作りに携わることができる利用者もおり、おやつ作りや盛り付けなど楽しみ事や役割と感じられるような取り組みを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は毎食チェックしている。水分少なめの方には声かけし、身体状態・食欲について医師と連携し、不十分な方には高カロリー食を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後本人の力に応じた口腔ケアを実施している。義歯は寝る前に預かり消毒している。口臭のある方もいるので対策している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、それに伴って誘導する。オムツを使用している人にはムレを軽減するよう回数を増やしたり、洗浄を行う。	個々の排泄の記録をとりパターンを把握し個々のリズムで排泄できるように支援し、利用者の状況によってはポータブルトイレを利用しています。個々に合わせた支援をすることで失敗が減ったり、排便習慣ができる等自立に向かうよう支援しています。移乗や座位の姿勢保持について理学療法士からアドバイスをもらったり、パッドなどの排泄用品について職員間で話し合い利用者本位に検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を確認し、排便コントロールを行う。飲食物の工夫や運動への働きかけ等個々に応じ予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調・身体の状態に合わせて入浴を楽しめるよう個々に応じた入浴の支援をしている。痒みや便失禁の続いた時は、その都度対応している。	入浴は週に2回午前中を基本に支援していますが、週に2回に至らないことがあったり、希望や状況によっては午後からや毎日入浴するなど個々の対応をしています。拒否される方には声のかけ方やタイミングを図り、無理の無い入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活パターンの把握に努め、適度な休息の時間をもてるよう支援している。日中はなるべく体を動かし、夜は自然に眠れるようにしている。体調と相談し、休息の時間を長めにしていただくこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の吐き出しの多い方について、職員間で相談・申し送りをしている。薬が増えたり減ったりした時は、特に状況報告を怠らないようにしている。全入居者の病気と薬の関係について、更なる知識を身につけていきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の好みの活動をしていただいている。洗濯物たたみや食器拭き、野球観戦など。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天候をみて戸外へと散歩にお連れしている。また食事や買物は行事計画の中に取り込むことでより計画的にお連れできるようになった。	気候や天気の良い日には散歩に出かけています。桜やコスモスの季節の花を見に外出行事を企画したり、外食や地域の祭りへの外出の支援を行っています。行事へは家族の参加を得ることができ、共に楽しんでもらっています。今後、行きたい所への個別外出も行いたいと考えています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩の時は必ず本人の希望を優先して地域の人との交流もあり、自ら代金を支払う普通の楽しい買物を実践している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員に一声かけてから自由にかけてもらっている。手紙の希望はないが、あれば支援する方向。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感（視覚･触覚･味覚･聴覚･嗅覚）に働きかけるように季節感のある飾り物、グリーンカーテンなど工夫している。	共有空間は広く、リビングと食堂に分かれており、リビングにソファを多く置き、利用者の好みの場所を選び穏やかに過ごせるよう支援しています。毎日丁寧に掃除を行い、グリーンカーテンを作ったり冬には加湿器を置く等、温湿度管理を行い心地よく過ごせるよう配慮しています。利用者と一緒に作った季節の飾りつけや生花を飾り、季節を感じられるよう支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にはソファなどくつろげる場所があるが、他者との距離感を取りつつ完全な一人ではない状態の場所に季節感・生活感も確認できる場所作りを支えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っている家具や、好みの寝具を持ってきていただき、居心地良く過ごせる工夫をしている。	居室は和室であり洗面台やクローゼットが備え付けられ、使い慣れたものを持ってきてもらうよう伝えています。馴染みの椅子やタンス、テレビなどを持ってきてもらい暮らしやすいよう配置し、写真や描いた墨絵等を飾っています。裁縫道具や絵の道具を置き居室で楽しめるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活への参加として、食器拭き・洗濯たたみ・入浴中ゆるす限り、自分で洗ってもらうなど、見守りしながら行ってもらう。動線に障害物を置かないように安全な環境作りをしている。		